

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鹿嶋市立波野小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	5年1組：29名 2組：29名 計：58名 6年1組：32名 2組：33名 計：65名 計：123名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	パラリンピック競技への興味・関心の向上や、障がいのある人への理解を深める。また、トップアスリートとの直接交流を通じ、障がいの有無に関わらず、運動やスポーツを楽しむことができるすばらしさを実感し、新型コロナウイルス感染症拡大で先が見えない状況の中で生きる子供たちに、あきらめず前向きな気持ちで歩いていこうとする意欲を高める。
5 取組内容	<p>～7月～</p> <p>○筑波大学主催のアンケートへの回答（4～6年生）</p> <p>○各学級で応援の旗を作成し、オリンピックへの関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランドの国旗を描き、英語でメッセージを書く。</li> <li>・東京五輪2020 男子サッカー「ニュージーランド vs 韓国」観戦</li> <li>・自分で作成した応援の旗を持ち、目の前で国を背負って戦う選手を応援</li> </ul>  <p>～10月～</p> <p>○筑波大学主催のアンケートへの回答（4～6年生）</p> <p>○事前に「落合啓士選手」の紹介動画を視聴し、ブラインドサッカーについて理解した。</p>

～11月～

○5日（金）ブラインドサッカー体験会・講演会の実施

2校時：6年1組（実技） 3校時：6年2組（実技）

- ・目隠しをした状態で準備運動をする。
- ・チームの1人は落合さんの動きを見てチームメイトにその動きを伝える。



- ・目隠しをした状態で、対面でパスをしたり、ボールを止めたりする。
- ・ボールを触る人だけが目隠しをしている。
- ・近くの友だちが寄り添って声をかけたり、手や腕を触ったりして情報を伝える。



- ・6チームに分かれて、試合を行う。
- ・1チーム5～6人で、そのうち3人は目隠しをつけてプレーする。
- ・落合さんもチームに入り、一緒にプレーする。
- ・目隠しをしている人の得点の配分を高くし、目隠しをしている人が活発にプレーできるようにする。



○4校時：5・6年（講演会）

- ・「日本代表になった経緯」、「目が見えなくなるとどうなるか」、「思いやりをもって接すること」等の話を聞き、質疑応答をした。

Q.「魅力は何か」

A.「音と声から情報を得て、プレーすること」

Q.「勝利の秘訣は何か」

A.「コートの外にいるガイドさんとの信頼関係」





- ・6年生はクラスごとに落合啓士さんと記念写真を撮影

○事後アンケートの実施（5～6年）

6 主な成果

- ・ブラインドサッカーを体験したことで、視覚を奪われたときの恐怖心や不安感を知り、視覚障がい者の立場になって考えることができた。
- ・目隠しをした友だちに寄り添い、声をかけることで、思いやりをもった言葉かけや行動の必要性を学んだ。
- ・互いに支え合う関係性や仲間の大切さを学ぶことができた。
- ・情報を友だちに伝えるときに、自分の見えている情報を正確に伝えるためにはどのような言葉で表現すればよいのかを考え、言葉の重要性に気付くことができた。
- ・講演会での落合啓士さんの話から、「視覚が奪われたらサッカーができない」という考えから「目が見えないからこそできることがある」という発想に転換できるようになった。その結果、様々なことに挑戦しようと前向きな考えをもつ児童が見られた。（事後アンケート）
- ・落合啓士さんのプレーを目の前で見ることで、ブラインドサッカーの難しさが分かり、落合さんの技術に驚いていた。しかし、プレーのすばらしさよりも、誰にも負けない心の強さに感動していた。
- ・落合啓士さんと交流したことで、落合さんの明るさや元気な姿を見て、障がいがあっても、楽しく生きるすばらしさに感銘を受けた児童もいた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- ・東京五輪2020の男子サッカーを観戦し、五輪への関心が高まった児童にブラインドサッカーを体験する場を設定したことで、オリンピックだけでなく、パラリンピックへの視野を広げるきっかけとした。
- ・4年生の総合的な学習の時間で、福祉に関する調べ学習をするため、今回の事業において購入した鈴入りボールを活用する。

8 主な課題等

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、落合啓士さんとのブラインドサッカー実技体験を全学年で実施できなかった。

9 来年度以降の実施予定

- ・今回購入した「鈴入りボール」を4年生の福祉体験や各学年の体育の授業において活用し、ブラインドサッカーへの関心を高めるとともに、オリンピック・パラリンピックに興味をもてるようにする。
- ・今後、同様の事業があれば参加し、日常生活では味わうことのできない貴重な経験ができるようにする。